

研 究

一地方都市における乳児を持つ父親の育児の自信

～第一報：自信が低い頻度と育児状況の関連～

佐々木 瞳¹⁾, 後藤 あや²⁾, 渡辺 春子³⁾
山崎 幸子⁴⁾, 川井 巧⁵⁾, 安村 誠司⁶⁾

〔論文要旨〕

本研究は父親の育児の自信に注目し、その実態と育児状況との関連について明らかにすることを目的とした。平成19年5月から平成20年3月に福島県S市の乳児健康診査を受診した者の健診データを用いた。分析対象の父親158名中、育児に自信がない父親の割合は、3～4か月児健診時は23.8%、9～10か月児健診時は27.9%であり、育児に自信がない父親は、育児状況も良くない傾向にあった。また、父親の育児の自信は、その後の育児状況の困難さを予測できる指標の一つとして有用であることが示唆された。父親を中心とした育児支援への有用な手掛かりになり得る知見が、本研究から得られた。

Key words : 父, 自信, 育児, 乳児, 父性行動

I. はじめに

近年、核家族化の進行や女性の社会進出の増加、共働き世帯数の増加などにより、父親に対する育児の期待は高まっている^{1,2)}。健やか親子21では、「育児に参加する父親の割合」の増加傾向を目標にしており、よく参加している割合は策定時の37%から増加したものの、中間報告でようやく50%に達した状況である³⁾。世界的にみても、日本における男性の育児や家事への関わりは、少ないことが報告されている²⁾。厚生労働省の調査⁴⁾では共働き家庭の男性でさえ、7割以上が育児休業を取得しにくいと回答

しており、社会全体の理解はまだ低く、父親が育児しやすい環境とは言い難い。

海外の先行研究によると、母親同様に産後の父親のうつはまれではなく、父親の精神的不安定は、児の発育に影響を与える⁵⁾。また国内の先行研究では、父親の育児協力や精神的サポートは、母親の育児負担の軽減につながるものが報告されている^{6,7)}。しかし、父親は育児の社会資源から孤立し、児の成長・発達について理解や認識不足の傾向にあり⁸⁾、また、父親は育児へ積極的な姿勢を持っていても、仕事のために児と過ごす時間が短いなど葛藤を抱えている⁹⁾。このような中で、父親の育児の自信に焦

Paternal Confidence in Child Rearing During the First Year of Parenting among Japanese Fathers in a Local City

〔2190〕

受付 09.12.16

～ Part 1 : Frequency of Lacking Confidence and Its Association with Other Parenting Indicators ～ 採用 10. 8.18

Hitomi SASAKI, Aya GOTO, Haruko WATANABE, Sachiko YAMAZAKI, Takumi KAWAI, Seiji YASUMURA

- 1) 前) 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 (保健師)
- 2) 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 (准教授/公衆衛生)
- 3) 福島県須賀川市保健福祉部市民健康課 (保健師)
- 4) 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 (助教/臨床心理士)
- 5) 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 (大学院生/小児科)
- 6) 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 (教授/公衆衛生)

別刷請求先: 佐々木瞳 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
Tel : 024-547-1180 Fax : 024-547-1183

点をあてた研究は、社会全体の理解の低さを反映するように、国内ではほとんど報告されていない。

福島県S市では、3～4か月児健康診査（以下「3～4か月児健診」）・9～10か月児健康診査（以下「9～10か月児健診」）前に、健やか親子21の項目を含む問診票を各家庭に事前送付しており、母親だけでなく父親も対象に、「育児の自信」を含めた育児状況を尋ねる新しい取り組みを事業化している。われわれの先行研究では、S市で実施した母親対象の報告において、3～4か月児・9～10か月児健診時点で母親の3～4人に1人が育児に自信を持たず、育児の自信がゆっくりとした気分で過ごせる時間がないなどの育児状況に影響を及ぼしていることを明らかにした¹⁰⁾。また、母親の育児の自信の心理背景には、自己効力感（ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまく行うことができるかという個人の確信）が低いことが強く関連していた¹⁰⁾。本研究は、父親の育児支援への有用な手掛かりとするために、父親の育児の自信と育児状況との関連について検討することを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象者

本研究では、福島県S市と当講座が協働で実施している母子保健事業評価に用いた登録データの一部を用いた。なお、S市が当講座に事業評価の協力を依頼したのをきっかけとして、その後も協働で育児支援に関する評価を行っており、その経過の詳細についてはすでに報告した¹¹⁾。

登録データの収集期間は、平成19年5月から平成20年3月であった。この期間に、9～10か月児健診を受診した212名のうち、3～4か月児健診時のデータが母子健康手帳交付番号によりマッチできなかった47名（転入32名、ID未記載4名、ID不一致11名）を除く、165名を対象者とした。分析対象は、除外項目（双子2名、夫不在5名）を除く158名とし、主に父親のデータを用いた。

2. 方法

妊娠届出時の健康相談票、3～4か月児および9～10か月児健診の乳幼児健康診査票から下記の項目を転記した。

3. 調査項目

- i) 父親の特徴：健康状態、年齢、就労、職業。
- ii) 母親の特徴：健康状態、年齢、就労。
- iii) 児の特徴：性別、在胎週数、出生体重。
- iv) 育児状況：健やか親子21の指標（前4項目）を含む以下5項目を転記した。

「このお子さんの子育てで、自信がもてないことがありますか」、「このお子さんを虐待しているのではないかと思うことがありますか」、「このお子さんとゆっくりした気分で過ごせる時間がありますか」、「お父さんはこのお子さんの育児をしていると思いますか」（以上4項目の回答肢は、はい・いいえ・何とも言えない）、「お子さんと過ごす毎日楽しいですか」（回答肢は、とても楽しい・どちらかといえば楽しい、どちらともいえない・あまり楽しくない・楽しくない）。

4. 分析方法

3～4か月児健診時と9～10か月児健診時の育児の自信の一致度には、カッパ係数を求めた。3～4か月児・9～10か月児健診時の育児の自信とそれぞれの健診時の育児状況の関連については、カイ2乗検定またはフィッシャーの直接確率を用いた。育児の自信については、相対的にネガティブな状態にある母親は「何ともいえない」と判断を避ける傾向にあり、幼児健康度調査でも否定的な回答として区分して¹²⁾、この比率を下げることを求めていることから¹³⁾、「いいえ（自信あり）」か「はい・何とも言えない（自信なし）」に2区分した。

データの解析には統計解析ソフトSPSS 14.0J for Windowsを使用した。

5. 倫理的配慮

本研究は通常の乳児健診等で収集できる既存情報のみを用いるものであり、市の母子保健事業の一環として行われるため、改めて対象者から直接同意を求める必要はない。データの収集

および分析は、研究IDを用いて個人が特定されない形で匿名化し、個人情報保護した。本研究は、福島県立医科大学倫理委員会の承認(受付番号821)を得て実施した。

Ⅲ. 結 果

1. 対象者の属性 (表1)

父親の特徴としては、年齢の中央値31.0歳、健康状態が不良0名、就労なしが0名、職業は事務職が最も多かった(74.3%)。

2. 3～4か月児健診時から9～10か月児健診時の育児の自信なしの推移 (図1)

育児に自信がない父親の割合は母親より高く、3～4か月児健診時では23.8%、9～10か

表1 対象者の属性

	N (%) ^a または 中央値 (最小, 最大) N=158
父親の特徴	
年齢	31.0(21.56)
健康状態	
良	118(100.0)
不良	0(0.0)
就労	
なし	0(0.0)
あり	148(100.0)
職業	
事務職	110(74.3)
自営業・農業	13(8.8)
専門, 技術職・管理職	8(5.4)
販売, サービス職	8(5.4)
労務職	9(6.1)
母親の特徴	
年齢	29.0(20.40)
健康状態	
良	129(86.6)
不良	20(13.4)
就労	
なし	85(55.9)
あり	67(44.1)
児の特徴	
性別	
男	81(51.9)
女	75(48.1)
在胎週数	
37週未満	6(3.8)
37週以上	150(96.2)
出生体重	
2,500g未満	10(6.3)
2,500g以上	148(93.7)

^a: 3～4か月児健診対象児の父親158名中の有効回答数を母数とした割合である。
一部項目では欠損のために100%が表頭の合計数と異なる。

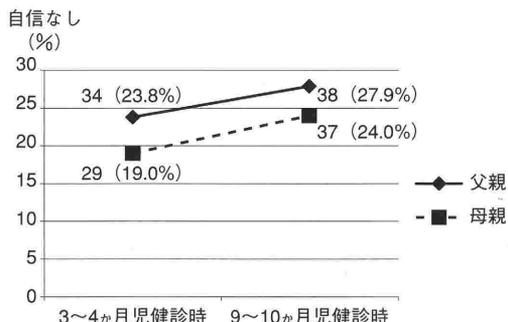


図1 3～4か月児健診時から9～10か月児健診時の育児の自信なしの推移

回答者は下記のとおりである。

父親: 3～4か月児健診時143名, 9～10か月児健診時136名
母親: 3～4か月児健診時153名, 9～10か月児健診時154名

月児健診時では27.9%であった。また、3～4か月児健診と9～10か月児健診の、父親の育児の自信の一致度は、カッパ係数0.47($p < 0.001$)であった。

3. 3～4か月児・9～10か月児健診時における父親の育児の自信と、同時点での育児状況の関連 (表2-1, 2)

3～4か月児健診時に育児の自信がない父親は、同時点の健診において、育児をゆっくりとした気分で過ごせる時間がない($p = 0.01$)、自分は育児をしていると思えない($p < 0.001$)と答えた者が、育児に自信のある父親より有意に多かった。9～10か月児健診時においても、同じ項目に加えて、子どもと過ごす毎日が楽しいと思えない者($p = 0.02$)が有意に多かった。

4. 3～4か月児健診時の父親の育児の自信と、9～10か月児健診時の育児状況の関連 (表3)

3～4か月児健診時に育児の自信がない父親は、9～10か月児健診時において、ゆっくりとした気分で過ごせる時間がない($p < 0.001$)、自分は育児をしていると思えない($p < 0.001$)、子どもと過ごす毎日が楽しいと思えない者($p = 0.04$)が、有意に多かった。

Ⅳ. 考 察

本研究の対象者で、育児に自信のない割合は、母親よりも父親の方が高かった。欧米の最近の研究で、父親においても産後うつ発症頻

表2-1 3~4か月児健診時における父親の育児の自信と、同時点での育児状況の関連

育児状況	育児の自信 [N (%)] ^a		p 値 ^b
	あり N=109	なし N=34	
虐待しているのではないかとと思うことがある いいえ はい・何とも言えない	109(100.0) 0(0.0)	33(97.1) 1(2.9)	0.24
ゆっくりした気分で過ごせる時間がある はい いいえ・何とも言えない	87(79.8) 22(20.2)	20(58.8) 14(41.2)	0.01
お父さん自身は育児をしていると思う はい いいえ・何とも言えない	88(80.7) 21(19.3)	17(50.0) 17(50.0)	<0.001
子どもと過ごす毎日は楽しいか とても楽しい・どちらかといえば楽しい どちらともいえない・あまり楽しくない・楽しくない	109(100.0) 0(0.0)	32(97.0) 1(3.0)	0.23

^a：一部項目では欠損のために100%が表頭の合計数と異なる。
^b：カイ2乗検定またはフィッシャーの直接確率を用いて分析した。

表2-2 9~10か月児健診時における父親の育児の自信と、同時点での育児状況の関連

育児状況	育児の自信 [N (%)] ^a		p 値 ^b
	あり N=98	なし N=38	
虐待しているのではないかとと思うことがある いいえ はい・何とも言えない	97(99.0) 1(1.0)	38(100.0) 0(0.0)	1.00
ゆっくりした気分で過ごせる時間がある はい いいえ・何とも言えない	82(83.7) 16(16.3)	22(57.9) 16(42.1)	<0.01
お父さん自身は育児をしていると思う はい いいえ・何とも言えない	83(84.7) 15(15.3)	24(63.2) 14(36.8)	0.01
子どもと過ごす毎日は楽しいか とても楽しい・どちらかといえば楽しい どちらともいえない・あまり楽しくない・楽しくない	96(99.0) 1(1.0)	33(89.2) 4(10.8)	0.02

^a：一部項目では欠損のために100%が表頭の合計数と異なる。
^b：カイ2乗検定またはフィッシャーの直接確率を用いて分析した。

度が高いことが明らかにされているように⁵⁾、父親の育児サポートの重要性を支持する結果が提示できた。われわれと同じ設問を用いて0歳児から6歳児を持つ父親を対象とした川井らの先行研究では、育児の自信がない父親の割合が19.9%と、本研究より低かった⁸⁾。一方、母親については、平成12年度幼児健康度調査¹⁴⁾の65%に比較すると、われわれの対象者における自信がない割合の方が低い結果となった。育児の自信は地域差や対象集団での差があると考えられるうえに、父親対象の報告は数少ない。近年、育児に関する研究において、父親を育児の

主体者として捉え、対象とすることの必要性が注目されていることから¹⁵⁾、今後は対象者数・対象地区を増やした検討が必要である。

父親・母親ともに育児に自信のない割合は、3~4か月児から9~10か月児健診にかけて増加傾向にあった。健やか親子21においても、児の月齢に伴い自信のない割合は増加しており³⁾、同様の傾向を示していた。親には、児の成長に伴って新たに生じる課題に、柔軟に対応することが日々求められる。しかし、先行研究では児の成長に伴い、周囲からの支援が次第に少なくなり、親の心理的背景として育児に対す

表3 3～4か月児健診時の父親の育児の自信と、9～10か月児健診時の育児状況の関連

9～10か月児健診時の育児状況	3～4か月児健診時の育児の自信 [N (%)] ^a		p 値 ^b
	あり N=109	なし N=34	
虐待しているのではないかと思うことがある いいえ はい・何とも言えない	97(99.0) 1(1.0)	32(100.0) 0(0.0)	1.00
ゆっくりとした気分で過ごせる時間がある はい いいえ・何とも言えない	86(87.8) 12(12.2)	14(43.8) 18(56.3)	<0.001
お父さん自身は育児をしていると思う はい いいえ・何とも言えない	85(86.7) 13(13.3)	17(53.1) 15(46.9)	<0.001
子どもと過ごす毎日は楽しいか とても楽しい・どちらかといえば楽しい どちらともいえない・あまり楽しくない・楽しくない	96(99.0) 1(1.0)	28(90.3) 3(9.7)	0.04

^a :一部項目では欠損のために100%が表頭の合計数と異なる。

^b :カイ2乗検定またはフィッシャーの直接確率を用いて分析した。

る否定的な感情が高くなることが報告されており、これらが関連しているのではないかと推測できる¹⁶⁾。

本研究では母親を対象としたわれわれの先行研究と同様に、育児に自信がない父親は同時点の乳児健診において、ゆっくりとした気分で過ごせる時間がないなど、育児状況が良くない傾向にあった¹⁰⁾。中でも、育児に自信がない父親は、自分は育児をしていると思えないと回答しており、育児の自己評価が低かった。この結果を裏付けるように、川上らは父親としての肯定的な役割意識が、父親としての役割遂行に重要であると報告している¹⁷⁾。さらに、3～4か月児健診時と9～10か月児健診時における父親の育児の自信の一致度が中等度であり、3～4か月児健診時の自信が9～10か月児健診時の育児に影響することを確認できた。

本研究では、母親のみを対象とすることの多い健診において、父親の情報を収集・活用したことにより、父親の育児の自信の実態を提示できた。3～4か月児健診時の父親の育児の自信を把握することは、健診時のみならず、その後の育児状況を予測するうえで重要である。今回得た知見は、父親を中心とした育児支援への有用な手掛かりになり得ると考える。

V. 限 界

本研究は、受診率が90%以上と高い乳児健診

(S市における平成19年度の乳児健診受診率：3～4か月児健診96.4%，9～10か月児健診93.5%)のデータを用いたが、S市の事業評価の一環として行ったため、対象集団および用いた指標が限定されている。また、対象者全員が健康状態良、就労ありであったが、データ欠損値が多かった。これらの項目は母親に問診票等で確認をしていることから、妥当性が低い可能性がある。上述の通り、今回得た結果の一般化には注意を要し、さらなる検討が必要である。

VI. 結 論

本研究は、通常業務で収集している乳児健診時の問診票を活用することで、日本で蓄積が乏しい父親の育児に関するデータを地域ベースで集計・分析し、下記の結果を得た。

1. 父親・母親ともに育児に自信のない割合は、3～4か月から9～10か月児健診にかけて増加傾向にあり、その割合は父親の方が高かった。
2. 育児に自信がない父親は、同時点の乳児健診において、育児状況も良くない傾向にあった。
3. 父親の育児の自信は、健診時のみならず、その後の育児状況の困難さを予測できる指標の一つとして有用であることが示唆された。

謝 辞

本論文をまとめるにあたり、快くご協力ください

ました福島県S市保健福祉部市民健康課の皆様にご心より感謝申し上げます。

本研究の一部は、第58回東北公衆衛生学会（平成21年7月24日、秋田）にて発表した。また、本研究は平成21年度福島県立医科大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程（公衆衛生学講座）の修士論文として提出されたものの一部である。

文 献

- 1) 厚生労働省. 平成20年国民生活基礎調査. 2009.
- 2) 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）. 平成17年度「少子化社会に関する国際意識調査」報告書. 2006；36-49.
- 3) 「健やか親子21」推進検討会. 「健やか親子21」中間評価報告書. 2006.
- 4) 厚生労働省. 今後の仕事と家庭の両立支援に関する調査結果. 2008.
- 5) Ramchandani P, Stein A, Evans J, et al. Paternal depression in the postnatal period and child development : a prospective population study. *Lancet* 2005 ; 365 : 2201-2205.
- 6) 坂間伊津美, 山崎喜比古, 川田智恵子. 育児ストレスの規定要因に関する研究. *日本公衆衛生雑誌* 1999 ; 46 (4) : 250-261.
- 7) 八重樫牧子, 小河孝則, 田口豊郁, 他. 乳幼児を持つ母親の子育てに不安に影響を与える要因—子育て不安と児童虐待の関連性—. *厚生指標* 2008 ; 55 (13) : 1-9.
- 8) 川井 尚, 安藤萌子, 武島春乃, 他. 父親の育児不安に関する基礎的研究 I—今後の父親育児不安尺度作成に向けての予備的分析—. *日本子ども家庭総合研究所紀要* 2008 ; 44 : 257-290.
- 9) 頭川典子. 乳児期における育児参加と虐待予防に対する父親の意識—核家族の父親への面接調査より—. *小児保健研究* 2008 ; 67 (2) : 403-410.
- 10) Goto A, Nguyen QV, Nguyen TTV, et al. Associations of Psychosocial Factors with Maternal Confidence Among Japanese and Vietnamese Mothers. *Journal of Child and Family Studies* 2010 ; 19 : 118-127.
- 11) 矢部順子, 古寺節子, 蓬田美知子, 他. 大学と協働して行った計画外妊娠が育児に及ぼす影響に関する調査とその計画にもとづく母子保健活動. *保健師ジャーナル* 2007 ; 63 (7) : 618-623.
- 12) 川井 尚, 恒次欽也, 中村 敬. 平成12年度幼児健康度調査からみる心の健康—とくに母親の心身の健康・育児不安とのかかわりについて—. *小児科* 2002 ; 43 (6) : 803-811.
- 13) 川井 尚. 10年ぶりに実施された平成21年度「幼児健康度調査」の概要. *母子保健情報* 2001 ; 43 : 100-104.
- 14) 子ども家庭総合研究所. 平成12年度幼児健康度調査報告書 2000.
- 15) Solantaus T, Salo S. Paternal postnatal depression : fathers emerge from the wings. *Lancet* 2005 ; 365 : 2158-2159.
- 16) 金岡 緑, 藤田大輔. 乳幼児をもつ母親の特性的自己効力感及びソーシャルサポートと育児に対する否定的感情の関連性. *厚生指標* 2006 ; 49 (6) : 22-30.
- 17) 川上あずさ, 牛尾禮子. 父親の育児に対する役割意識に関する要因とその支援方略. *小児保健研究* 2008 ; 67 (3) : 496-503.

[Summary]

This study focused on paternal confidence in child rearing among Japanese fathers with infants in a local city, and investigated the level and its association with other parenting indicators. We analyzed data collected at child health checkups in S City, Fukushima from May 2007 to March 2008. Among 158 fathers, a proportion of those who were not confident was 23.8% at 3-4 months and 27.9% at 9-10 months child health checkups. Fathers who were not confident self-evaluated their own parenting contribution lower compared to confident fathers. Paternal confidence at 3-4 months checkup was indicative of the confidence and parenting at 9-10 months checkup. Our findings provide an important basis for promoting parenting support programs for fathers to foster their confidence.

[Key words]

fathers, confidence, parenting, infant, paternal behavior